

# キューバの医療について

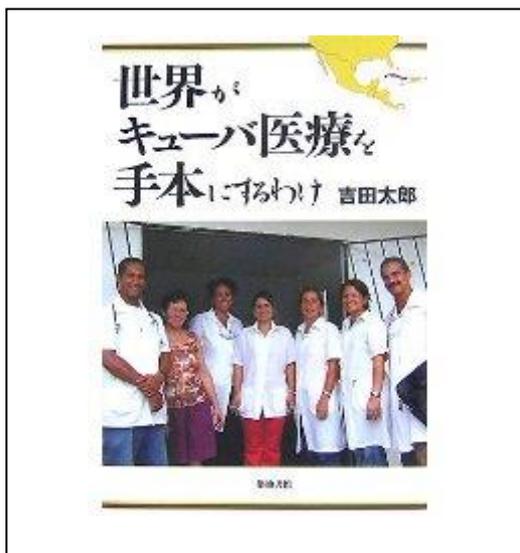
平成 21 年 11 月 15 日（高橋養藏氏講演要旨）

キューバの国は広さが日本の本州の半分です。そこに 1 2 0 0 万人の人々が暮らしています。日本は平野が 3 割で山林が 7 割ですが、キューバは逆で平地が 7 割で山林が 3 割です。ヨーロッパ系の人種が 25%、アフリカ系の人種が 25%、混血が 50%で原住民は絶えてしまっているということです。

スペインそしてアメリカの植民地支配から、1959 年、独立をめざしたカストロやゲバラに率いられた青年たちの軍事蜂起により、革命政権ができて新しい国づくりが始まりました。今年が革命 50 周年で式典が行われ、式典やカストロそしてゲバラについてマスコミも報道しました。

サトウキビだけの歪んだ産業、アメリカによる干渉や妨害の下で、経済的にはけっして豊かではありません。今でも経済封鎖が続けられています。国民総生産は日本の 100 分の 1 で困難な経済状況です。しかしキューバには、ホームレスは見当たらず過労死はありません。マンボやチャチャチャなどラテンアメリカ音楽が街角に流れるゆったりした国です。

キューバの医療については吉田太郎著の「世界がキューバ医療を手本にするわけ」（築地書館）という本が出版されていますので読んでみて下さい。



## 1 全住民対象のファミリードクター制度

2 回訪問したのですが、キューバの医療で一番素晴らしいと感動したのはファミリードクター制度です。ファミリードクターは、地域医療の最前線におり、一人の医師が 700 人から 800 人の住民を担当します。全国にファミリードクターが配置され、担当住民の診療、医療の相談に対応しているのです。

各地域には約 200 世帯に 1 ヶ所の診療所があり、この診療所を中心にしてファミリードクターは、担当住民の健康状態を掌握しています。

この診療所の上に市町村単位の病院があり、さらに市町村病院を統括する州病院が各州にあるのです。この他に、全国病院、大学、研究センターでは専門的な研究、開発を行っています。

## 2 優れたハイテク医療

自国の資源を活用し、ユニークな医薬品の開発に成功しています。

B 型肝炎ワクチン、髄膜炎ワクチンは外交関係が有る国々に輸出され高い評価をえています。サトウキビを原料にして抗コレステロール剤を開発しています。エイズ治療薬も自力で開発して、感染防止の対策をすすめています。



（講演する高橋養藏氏）

### 3 代替医療の積極的な活用

1960年代ソ連社会主義政権の崩壊で、キューバ経済は重大な打撃を（講演する高橋氏）受けて、自給自立の道へあゆみ始めます。医療資源入手困難なかで代替医療活用に取り組みます。

研究のなかで、1997年には「自然、伝統医療全国開発、普及計画」を作成し、積極的な活用に踏み出しました。自国の伝統医療であるハーブ、鍼、灸、指圧、ホメオパシー、温熱療法、神経・ミネラル療法、自然食品、ヨーガ、電気レーザー療法、オゾン療法など研究されています。鍼灸治療は医科大学の授業にも取り入れられ、全国のファミリードクターに普及している。多くの地域病院に鍼灸治療室があります。

国が伝統医療を活用する方針を持つことで、国民の医療を豊富にすることができます。

日本は自国の伝統医療を認めませんが、これは国民医療にとって大きな損失です。



### 4 小さな国力でも、積極的な国際貢献

国境なき医師団へ人材、資材を投入し、災害地の救援に大きな役割をはたしています。

パキスタン北部の大地震の被災者救援に

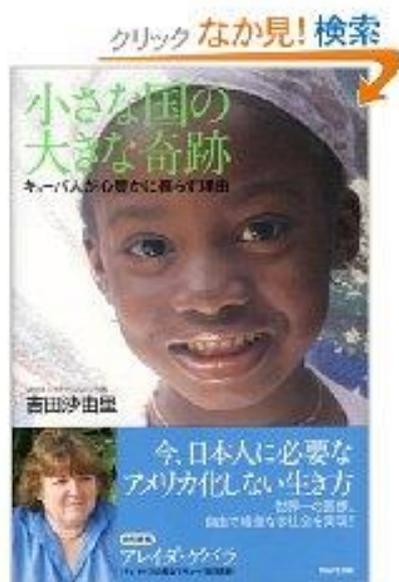
900人の医療援助隊と250トンの医薬品を

（フリオ・ディアス・リハビリ病院、高橋敦子氏）

投入し、困難な地域を受け持ち、最後まで残り難民の診療にあたったということです。パキスタン、イスラマバードの公式統計では、難民被災者73パーセントの治療をキューバの救援隊が行ったと発表されています。パキスタン大地震の半年後のジャワ大地震でも135人の医療援助隊が派遣されています。

また、キューバは、ラテンアメリカはじめ貧しい国の医療を確立するため、医師養成のラテンアメリカ医科大学を1999年に設立しました。

各国より留学生を自国の負担で受け入れ、医師を養成しています。留学生を受け入れる条件は、留学生が自国に帰り医療活動に携わることだそうです。



### 5 中谷巖氏のキューバの評

驚くことに、このような制度で行われるキューバの医療は無料です。診療所も病院も無料です。医療も教育も国の責任で行われ、大学まで教育も無料です。

中谷巖氏は小泉政権の中で、国の政策として市場原理主義を積極的に推進した方ですが、最近市場原理主義の問題点を指摘する発言をされています。この中谷巖氏が著作「資本主義はなぜ自壊したのかー日本再生への提言」の中でキューバについて述べていますが、キューバにもいろいろ問題はみられると指摘したうえで次のようにいっています。

「もちろん、すでに述べたように経済そのものは決して豊かではない。だが、その一方で国民の平均寿命や

乳児死亡率は、欧米先進国とまったくひけを取らないほど高い健康水準を維持しているのである。社会主義の医療というと、欧米先進国の医療水準よりずっと低いものを想像してしまいがちだが、たとえば乳児死亡率で見れば、近年のアメリカでは 1000 人に 7 人であるのに対して、キューバでは 1000 人当たりわずかに 5.3 人。アメリカよりもキューバの方が乳児にとっては安全ということになる。

またキューバの平均寿命は 77.5 歳で、これはアメリカやカナダに匹敵する数値である。社会主義のキューバでは医療費は当然のことながら全額無料であって、さらに幼稚園から大学まで教育費は無料である。こうやってみていくと、少なくとも医療や教育面だけを見るならば、アメリカとキューバどちらのほうが住みやすい国だろうか考えこんでしまう。」

私は2度のキューバ訪問を通じて、われわれがキューバの医療から学ぶものがたくさんあると感じています。